

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	有	
体育学部	教授	森田 啓			
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
高橋徹、森田啓、松宮智生、「体育原理」で取り扱う授業内容の検討、岡山大学大学院教育学研究科研究集録 (岡山大学) 第179号、pp. 113-119.		2022年2月	本研究は、教職課程関連科目である「体育原理」で取り扱う授業内容について考察した。現在「体育原理」で扱われている内容は「PPEのように理論と実践の橋渡し」「体育の本質を追求する内容」「批判的思考力育成をめざした内容」「研究分野自体の理解を深める内容」の4つに大別できる。今後は体育とスポーツの関係の変容なども考慮に入れつつ、学修内容の拡張と選択の可能性について検討が必要と考えられる。		
森田啓他、「批判的思考力」育成をめざした体育・スポーツ哲学の授業に関する研究：具体的事例 (5打席連続敬遠) から、体育学研究 (日本体育学会) 第64巻第1号、pp. 303-313.		2019年6月	本研究の目的は、体育・スポーツ哲学の授業において、批判的思考力の育成をめざした取り組みを考察することである。5打席連続敬遠の是非という具体的事例を検討し、批判的思考力育成をめざした。4年間合計8回の授業において、1,020人が受講し、118人 (11.5%) が解説を聞いた後で賛否を変えている。一度自ら判断を下したことについてさえも批判的にとらえなおすことができた証拠といえよう。賛否は変わらなくても、ほぼ全員が現象の背後にある原則や価値観について考察し、考えが深化していると評価できた。		
森田啓他、大学体育による大学間連携、科目連携、地域連携の取り組み：フットボールを教材として、体育学研究 (日本体育学会) 第64巻第1号、pp. 429-439.		2019年6月	本研究の目的は、大学体育による大学間連携プログラム、科目連携、地域連携について考察し、大学体育の可能性を提示することである。 本研究の結論は以下のとおりである。 ①身体に無関係の学問領域はないので、大学体育はいろいろな領域と連携・協力することが可能である。②身体を教育や研究の対象としている大学体育は、大学教育のさまざまなところで貢献することが可能である。 大学間連携、科目連携、地域連携にはさまざまな課題が伴うので、その課題をいかに克服するかを学生自身が考えることによって、能動的学修 (Active Learning)、課題解決学習 (Problem Based Learning) が可能である。		
森田啓他、学士課程教育における大学体育：その可能性と再定義、体育学研究 (日本体育学会) 第61巻第1号、pp. 217-227.		2016年6月	本研究の目的は学士課程教育における大学体育の意義・可能性について提示することである。 本研究の結論は以下のとおりである。 ①大学体育は予備的・前提的教育ではなく、教養教育、さらには専門教育として実施すべきである。②大学体育は、「体育」という枠に閉じこもるのではなく、対象を拡大し、身体と関係のあるさまざまな領域とリンクして、多様な教育を展開すべきである。③大学体育教員のスポーツ・サイエンス分野の専門性 (スポーツ哲学、スポーツ生理学など) を発揮した教育をすべきである。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書 (単著)					
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月
著書 (共著・分担執筆)					
題目/書名	著者/編者	初 (始) 頁~終頁	発行所	発行地	発行年月
原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)					
題名	著者	誌名	巻	初 (始) 頁~終頁	発行年月
Philosophical Discussion on Topics about Sports: Practice in a University General Education Curriculum	MORITA, H. KODANI, K. KAWABATA, K.	Book of Abstracts, 27th Annual Congress of the European College of Sport Science		pp. 571-572.	2022年9月
How Should Sport Be at Present?: War, Covid-19 and Sport	Hiraku Morita, Koji Takahashi, and Takayuki Hata	The International Association for the Philosophy of Sport, Book of Abstracts		p. 75.	2022年8月

The Possibility of Using Sports as Political Tools: Consideration Based on the Crisis of Sports Existence	MORITA, H.	Book of Abstracts, 25th Annual Congress of the European College of Sport Science		pp. 433-434.	2020年10月
What is University Physical Education in Japan?: Ideal and Reality	Hiraku Morita, Sanae Nakajima	The 2020 Yokohama Sport Conference, Abstract Number:001-P0610		Abstract ID:50781, (Online)	2020年9月
大学教養教育としての大学体育の位置づけに関する一考察：某工学系大学を例に	金田晃一、引原有輝、佐藤和、川西範明、森田啓	『大学教育学会誌』	第41巻第2号	pp. 35-44.	2020年5月
「ありのまま」を肯定できる体育への転換	森田啓	『体育科教育』2020年4月号（特集：「共生体育」時代の幕開け）		pp. 16-19.	2020年4月
Fairness and contingency in sport: Future of eSports and digital sports	Hiraku Morita, Koyo Fukasawa and Takuya Sakamoto	The International Association for the Philosophy of Sport, Book of Abstracts, 47th Annual Meeting		p. 52.	2019年9月
What is University Physical Education in Japan?: Possibility of University Physical Education	Morita, H.	Book of Abstracts, 24th Annual Congress of the European College of Sport Science		pp. 743-744.	2019年7月
「批判的思考力」育成をめざした体育・スポーツ哲学の授業に関する研究：具体的事例（5打席連続敬遠）から	森田啓、荒牧亜衣、植木陽治、深澤浩洋	『体育学研究』	第64巻第1号	pp. 303-313.	2019年6月
大学体育による大学間連携、科目連携、地域連携の取り組み：フラッグフットボールを教材として	森田啓、亀山巖、林久仁則、金田晃一、谷合哲行、渡部滋之、脇田雅之、松元剛	『体育学研究』	第64巻第1号	pp. 429-439.	2019年6月
What is the value of sports as teaching material in citizenship education?	Fukasawa, Koho and Morita, Hiraku	The International Association for the Philosophy of Sport, Book of Abstracts, 46th Annual Meeting		pp. 23-24.	2018年9月

総説

題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月

その他（「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入）

区分	題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
実践報告	大学生による体育・保健体育の考察：校種に着目して	共 森田啓、高橋浩二、中島早苗、佐藤和、佐藤博信、小谷恭子、河鱒一彦、畑孝幸	『体育哲学年報』	第53号		2023年3月
実践報告	スポーツのルールについて考える（シンポジウム報告）	共 森田啓、高橋徹、松宮智生、土田了輔、加藤謙、椿原徹也	『体育哲学年報』	第53号		2023年3月
実践報告	大学生による「体育」の考察に関する研究：「体育」自体を対象に	共 森田啓、中島早苗、河鱒真世、高橋浩二、佐藤和、佐藤博信、小谷恭子、河鱒一彦	『体育哲学年報』	第52号	pp. 29-33.	2022年3月
実践報告	「体育原理」で取り扱う授業内容の検討	共 高橋徹、森田啓、松宮智生	『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』	第179号	pp. 113-119.	2022年2月
実践報告	大学体育に関する研究：「大学体育の思想」の実践	共 森田啓、中島早苗	『体育哲学年報』	第51号	pp. 23-28.	2021年3月
実践報告	体育・スポーツ哲学の授業実践	共 高橋徹、松宮智生、森田啓	『体育哲学年報』	第50号	pp. 35-39.	2020年3月
実践報告	スポーツの希望：新自由主義拝金競争主義を超えて	単 森田啓	『体育哲学年報』	第49号	pp. 25-29.	2019年3月
研究ノート	「身体」をキーワードにした教科横断的学修の可能性	共 土田了輔、森田啓、上島慶	『上越教育大学研究紀要』	第38巻第1号	pp. 195-203.	2018年9月
実践報告	「新自由主義における学校体育：ありのままの存在の肯定を」「学校体育で育てる身体を考える（1年目）：学校教育の原則と体育の役割」	共 高橋徹、中澤雄飛、深澤浩洋、佐々木究、森田啓	『体育・スポーツ哲学研究』	第40巻第1号	pp. 83-95, 2018.	2018年6月

学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等）」、「研究会」等区分を記入）

区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名
国内(講演)	2023年3月16日	大阪体育学会「身体運動文化領域」研究会	スポーツを通じた教育は可能なのか？	オンライン	森田啓
国内(シンポ)	2022年12月3日	日本体育・スポーツ・健康学会体育哲学専門領域2022年度第2回定例研究会	スポーツのルールについて考える	オンライン	森田啓、高橋徹、松宮智生、土田了輔、加藤謙、椿原徹也
国内(一般演題)	2022年9月24日	日本スポーツ教育学会第42回大会	大学生と考えるセカンドキャリア教育：体育・スポーツの専門課程の大学生を対象に	流通経済大学	森田啓、高橋浩二、畑孝幸

国際	September 2, 2022.	27th Annual Congress of the European College of Sport Science	Philosophical Discussion on Topics about Sports: Practice in a University General Education Curriculum	Seville, Spain	MORITA, H. KODANI, K. KAWABATA, K.
国内(一般演題)	2022年9月2日	日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会	大学生による体育・保健体育の考察：校種に着目して	順天堂大学さくらキャンパス	森田啓、高橋浩二、中島早苗、佐藤和、小谷恭子、河鱈一彦、畑孝幸
国際	2022年8月15日	The International Association for the Philosophy of Sport, The 50th Anniversary of the Annual Meeting	How Should Sport Be at Present? War, Covid-19 and Sport	Penn State, USA (Online)	Hiraku Morita, Koji Takahashi, and Takayuki Hata
国際	October 30, 2021.	Taiwan International Conference of Philosophy of sport	Physical Literacy as a Learning Content of University Physical Education	Online	Koji Takahashi, Takayuki Hata, Hiraku Morita
国内(一般演題)	2021年10月29日～11月8日	日本スポーツ教育学会第41回大会	批判的思考力を用いたスポーツ教育学の実践	福岡教育大学 (WEB開催)	森田啓
国内(一般演題)	2021年9月8日	日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会	保健体育の評価：大学生による考察	オンライン (筑波大学)	森田啓、中島早苗、河鱈真世、高橋浩二、佐藤和、小谷恭子、河鱈一彦
国内(一般演題)	2021年6月17日	第7回日本スポーツパフォーマンス学会	教養スポーツ (大学体育) における課題探求の取り組み：卓球を事例に	ポートメッセなごや第1展示場 (オンライン併用)	森田啓
国内(一般演題)	2021年2月22日	(公) 全国大学体育連合第9回大学体育スポーツ研究フォーラム	大学教養体育オンデマンド授業による社会人基礎力の変化	オンライン	佐藤和、引原有輝、畑誠之介、金田晃一、森田啓、廣瀬伸良、中村充、古川寛
国際	October 28-30, 2020.	25th Annual Congress of the European College of Sport Science, ,	The Possibility of Using Sports as Political Tools: Consideration Based on the Crisis of Sports Existence	Online	MORITA, H.
国際	September 8-22, 2020.	The 2020 Yokohama Sport Conference	What is University Physical Education in Japan?: Ideal and Reality	Online	Hiraku morita, Sanae Nakajima
国際	September 18, 2019.	The International Association for the Philosophy of Sport, 47th Annual Meeting	Fairness and contingency in sport: Future of eSports and digital sports	Kyoto, Japan	Hiraku Morita, Koyo Fukasawa and Takuya Sakamoto
国内(課題研究)	2019年9月10日	日本体育学会第70回大会	大学生が考察・討論する体育：「小中高校の体育」と「大学体育」について	慶應大学日吉キャンパス	森田啓、中島早苗
国際	3-6 July, 2019.	24th Annual Congress of the European College of Sport Science	What is University Physical Education in Japan?: Possibility of University Physical Education	Prague Congress Center, Prague, Czech Republic	MORITA, H.
国内(シンポ)	2019年6月1日	2019年度第1回体育学会体育哲学専門領域定例研究会	具体的事例から考える体育・スポーツ哲学、(高橋徹、松宮智生、森田啓、シンポジウム「体育・スポーツ哲学」の授業実践)	筑波大学東京キャンパス	森田啓
国際	September 6, 2018.	The International Association for the Philosophy of Sport, 46th Annual Meeting	What is the value of sports as teaching material in citizenship education?	Norges Idrettshogskole, Oslo, Norway	Fukasawa, Koyo and Morita, Hiraku
国内(シンポ)	2018年8月25日	日本体育学会第69回大会	スポーツの希望：新自由主義拜金競争主義を超えて (関根正美、坂本拓弥、野上玲子、森田啓、鈴木明哲、シンポジウム「反・反知性主義的スポーツ論：スポーツの希望」)	徳島大学常三島キャンパス	森田啓

科学研究費等の取得状況

科学研究費／その他の助成金／外部資金

区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額 (期間内の総額)

特許						
特許名称	発明者／出願人	出願日／出願番号	公開番号	取得した場合 →	公告・特許番号	国

Ⅲ 加入学会および社会における活動

期 間	内 容
加入学会	
2015年4月～現在	日本体育・スポーツ哲学学会 理事
2023年7月～現在	日本体育・スポーツ哲学学会 機関誌『体育・スポーツ哲学研究』編集委員会 委員長
2015年4月～現在	日本体育・スポーツ・健康学会 (日本体育学会) 体育哲学専門領域 運営委員会委員

社会的活動				
IV 管理活動				
期 間		内 容		
委員会活動				
特別プロジェクト活動				
V クラブ活動の指導業績				
1. 指導クラブ名	部	2. 役職	3. 部員数	人
4. 現場指導の頻度	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：	日
6. クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				
開催期間	大会名	成績	場 所	
VI 賞罰 (職務に関する賞罰)				
年 月	受賞等機関名	内 容	備 考	
2021年10月31日	(Taiwan International Conference of Philosophy of sport (台湾運動哲学研究会))	優秀論文得賞名單 (優秀論文賞) 受賞		
2017年9月25日	(公) 全国大学体育連合	大学体育優秀教員賞 受賞		
2016年12月17日	(公) 全国大学体育連合	大学体育研究精励賞 (ゴールド) 受賞		